

## INDEX

### 1 第16回FDワークショップ開催報告

2016年9月4日(金)に市ヶ谷キャンパスにて開催しました第16回FDワークショップ「教学マネジメントを担う大学職員の可能性—大学職員の持つべき資質、技能、能力は何か—」について、報告します。

### 2 ネブラスカ大学 FD 研修参加者の声から学ぶ

2016年3月12日(土)～3月20日(日)に、アメリカ・ネブラスカ大学オマハ校にて行われたFD研修に参加した教員を対象に参加による気づきを聴いてみました。

### 3 第9回FD学生の声コンクール、FD川柳応募作品数速報

2016年9月15日から30日まで作品を募集していた第9回FD学生の声コンクールおよびFD川柳の応募作品数を速報としてお伝えします。

作品は、  
色柄多様な  
法政模様

次号よりFD川柳の応募作品をこちらに掲載します。楽しみに。

発行：  
法政大学  
教育開発支援機構  
FD推進センター

ホームページ  
<http://www.hoseikeyoiku.jp/fd/>

問い合わせ先  
[fd-jimu@hosei.ac.jp](mailto:fd-jimu@hosei.ac.jp)

## 1 第16回FDワークショップ開催報告

2016年9月4日(金)13:00より、市ヶ谷キャンパス外濠校舎S407教室にて、学内教職員限定第16回FDワークショップ「教学マネジメントを担う大学職員の可能性—大学職員の持つべき資質、技能、能力は何か—」を開催しました。本イベントは、職員研修として、学務部・人事部・FD推進センターと合同で開催しています。

第一部は、基調講演として筑波大学大学研究センターより加藤毅氏をお招きして、ご講演いただきました。「教学マネジメントの課題・アウトカム・基盤」のタイトルのもと、教育改革を進展させるための手段として大学に求められている多様な取り組みについて、背景をふまえた上で改めて確認するとともに、着実な成果達成にむけてその基盤となる人材と組織の在り方についてお話いただきました。



第二部は、学務部職員研修として、「大学職員によるバーチャル教学改革提案—こうしたら法政大学は発展する」というテーマのもとグループワークを行いました。あらかじめ割り振られたチームにわかれ、教学改革提案を検討し、最後にチームごとの成果発表を行いました。成果発表には、学部長も参加し、各チームへ講評を行いました。

この研修では、教員・職員ともに普段の業務ではなかなか関わる事のできないメンバーと教学改革について一緒に考えることができた貴重な時間となりました。



## 参加者の声

方向性の見えない文科省の答申等に振り回され、細かい体裁等を常に整えることに終始する現状があるので、非常に共感できた。解決するような魔法のような方法はないが、俯瞰的な視点を持つことで気持ちがラクになること、より良い改善につながることで、すでに取り組んでいる自大学の良さに気づけることがあると理解できた。

現在置かれた職員の立場が良く理解できた。日頃から気が付いていたことを再認識できたが、職員の専門能力の向上の困難さにも気づかされた。調査回答、教授会関係を行うことに埋没してしまい、能力向上の機会を奪われてしまうことに危機感を覚えていたので、今回の研修は有意義だった。

第二部の発表において、「全学〇〇」「3キャンパス～」は、複数のグループでとりあげられていました。つまり、職員の間では共感している問題なのではないかと思われます。今後の取り組みの中で意識していきたいと思います。

## 2 ネブラスカ大学 FD研修参加者の声から学ぶ

2016年3月12日(土)～3月20日(日)、アメリカ・ネブラスカ大学オマハ校にてグローバル教育センター主催によるFD研修が実施されました。同研修は、授業の質向上を目指し、アメリカのFDを専門とする講師陣から効果的な教授法、クラス運営、コミュニケーション方法を学ぶことを目的にしたものです。さて、参加した教員はどんな気づきを得られたのでしょうか。

日本の大学とアメリカの大学とで、教え方に関して一番大きく異なる点は何かと思われましたか。

### ●授業進度よりも深度を重視

1学期内での進度を重視するよりも、いくつかのポイントをゆっくりと徹底して教え、学生の知識として蓄積させることを重視している点だと感じました。授業の最初にクラスの雰囲気を作り上げる仕掛け、例えば授業のテーマとまったく関係のないゲームを実施するなど学生間・学生と教員とのコミュニケーションがとりやすい環境づくりに時間を使い、授業中に深い議論や質問がしやすくなることに配慮されている点も異なるように感じました。ただこれらの違いは、科目や個々の教員の方針に依存するため、すべての科目で同様の取り組みがあるわけではなく、日本とほぼ変わらない教え方で運営されている授業も多くあるとのことでした。よくイメージされているようにアメリカの全ての授業がインタラクティブで授業中の発言や議論を重視しているということではないことも新しい気づきでした。

### ●学生との授業での関わり方

日本では教員による一方的な講義形式が多いが(科目にもよりますが)、アメリカでは講義科目のような授業形態でも、常に学生との相互関係を保ちながら、疑問や質問を投げ掛け、答えさせる、考えさせるといった授業形態であることに驚きました。また、毎回のように課題やレポートが課せられるように、教員の負担もたいへんだなあと思いました。持ちコマ数がわからないので、一概には言えませんが。

### ●実質的な「教える」トレーニングがある

私は、中学校と高等学校の教職の免許をもっているのですが、「教える」ということについては一応教員養成のプロセスで学びましたが、ここまで具体的な技法や役立つ考え方は指導してもらわなかったと思います。アメリカにおいては、このように「教える」ということについて教員が実質的にトレーニングを受けられるところが素敵です。最終的には、ベテランであろうがなろうが、こうしたFDについて研究されているメンバーから細かい評価もいただき、役立つフィードバックを得られたことは、とても嬉しい体験でした。

日本の教育手法について、あらためて良い特徴だと思えたことを教えてください。

### ●体系的な授業

短い期間でも、その科目の全体像や、現在進行形の新しいトピックまで大枠を教えるようにスケジュールが組まれている点は、この先学生が自分の興味に合わせて自主的に学習するためにはよい指針となつて感じました。科目の大枠が見えない中で、いくつかのトピックを教えることに特化していると、学生が体系立てて深く学ぼうとする際に、基礎的な知識習得をすべて独学で行わなければならない、余計な時間がかかるのではないかと思います。

### ●学生に迎合しない

学生に迎合しないで「できる学生」を育てるのが特長

### ●シャイな日本人にあった授業形態

日本でアメリカのような授業形態をいきなりとると、シャイな日本人学生は引いてしまいそうで、本当に授業が成り立つのか疑問に思いました。また、1授業当たりの受講者も20-30人くらいで、それ以上ではできないと思います。よって、日本では現在の講義形式(マスプロ教育)も致し方ないのではと思いました。

### ●現状維持による自由の保持

今回のプロセスのなかで、日本の手法の方が良いと再認識するところは正直いって感じられませんでした。こうした研修を受けるとかトレーニングを受けること自体が面倒だとか、人から評価されるのは抵抗があるという方にとっては、今の日本の現状の方が、自分の自由にできるので逆に良いと思えるところかもしれません。



## 3 第9回FD学生の声コンクール、FD川柳応募作品数 速報

第9回FD学生の声コンクールおよびFD川柳の作品を、2016年9月16日～30日の期間で募集していました。今回、初めて実施したFD川柳にも多くの作品をお寄せいただく結果となりました。ご協力ありがとうございました。まずは速報として応募状況をご報告します。

FD学生の声コンクール

所属	作品数
法学部	1
文学部	9
社会学部	2
国際文化学部	11
現代福祉学部	1
キャリアデザイン学部	1
生命科学部	1
大学院人文科学研究科	1
大学院理工学研究科	1
大学院政策創造研究科	1
通信教育部文学部	1
総計	30

FD川柳

所属	作品数
法学部	15
文学部	12
経済学部	10
社会学部	7
経営学部	8
国際文化学部	16
人間環境学部	10
キャリアデザイン学部	5
理工学部	10
生命科学部	5
人文科学研究科	10
政策創造研究科	11
理工学研究科	2
人事部	2
学務部学部事務課経営学部担当	2
学務部教学企画課	3
第二中・高等学校事務室学務担当	2
理工学部(教員)	6
総計	136

